

教員養成の目標及び目標達成のための教育計画

子ども学専攻は、本学子ども学部子ども学科における教員養成をさらに発展させるとともに、生活支援科学研究科の理念に基づいた高度な専門職業人を養成することを、教育研究の目的としている。幼児期から児童期にかけての子どもの発達の理解のうえに、教育学を中心に心理、保育、福祉、環境等の隣接分野も含めた子ども学の学問体系を修めて研究を深めると同時に、学校現場におけるフィールドワーク等の実践を通して子どもの生活をトータルに理解し、個別的な支援を行うことができる高度な課題解決力、卓越した実践的指導力を有する教員の養成をめざす。

こうした子ども学専攻の理念と性格から、「子どもに関する科学的理解を基盤に、個々の子どもへの生活支援の視点をもって、教育上の指導のあり方を探求する高度な課題解決力と研究力、実践への応用力を備えた教員養成」を、本専攻における教員養成の理念としている。

子ども学専攻において養成したい教員像は、以上のような教員養成の理念のもとで、幼児期から児童期の発達をトータルに支援するとともに、生涯学び続けるという強い意志をもち、現在そしてこれからの日本社会で喫緊に求められる能力を磨こうと努力する教員である。

以上のような教員養成の理念を実現するための構想は、本専攻のカリキュラムと学修の過程に具現化されている。

まず、1年次に必修科目として、「子ども学特論」（前期 2 単位）、「子ども学実践演習Ⅰ（幼児期）」（後期 2 単位）、「子ども学実践演習Ⅱ（児童期）」（後期 2 単位）を配置する。「子ども学特論」では、幼児期から児童期への発達特性の理解のうえに子どもの育ちと教育に関する総合的な考察を行う。「子ども学実践演習Ⅰ（幼児期）」「子ども学実践演習Ⅱ（児童期）」は、幼稚園や学校でのフィールドワークを含む授業であり、子どもの観察や授業研究等を通して、実践の理論化、理論の実践への応用について探求する。

次に選択科目として、「教育史特論」「カリキュラム特論」「発達心理学特論」等の教育の基礎的理解に関する科目、「言語教育特論」「算数教育特論」等の教科に関連した科目を配置し、新たに「幼児教育学特論」「子どもの創作表現特論」という幼児教育に特化した科目を設置する。

また、「子どもの臨床心理特別演習」「子どもの食育特論」「子育て支援特論」等、子どもの生活場面への支援を目的とした科目を設置していることは子ども学専攻の特色であり、家庭や保護者と連携する能力を実践的に培うことをねらいとしている。

さらに、生活支援科学研究科の共通科目（必修）である「生活支援科学特論」（1 年前期）を履修することで、地域生活支援学、健康栄養学、臨床心理学、リハビリテーション学の各専攻所属教員から、様々なライフステージにおける生活場面への支援のあり方と方法についてトータルに学ぶことができる。

2 年間の学修の集大成ともいえる修士論文では、子どもの育ちと教育・保育に関連した領域で、各学生が自ら選択したオリジナルなテーマに沿って課題探求、課題解決的学修を継続的に推進し、高度な研究スキルと実践への応用能力、プレゼンテーション能力を身につける。

以上で述べたような理念と構想から、「子ども学、及び子ども学を構成する教育学等の専門分野に関する深い学識をもとに、子どもと保護者、地域に住む様々な人々と連携して、適切な支援と指導ができ、教育現場でリーダーシップを発揮しうる教員」を、子ども学専攻のめざす教員像とする。